

に対する重力の影響の研究および液化化等を利用した地盤の振動減衰効果に関する研究など表層地盤振動特性の研究上、興味深いものであった。

(文責：応用地質(株) 山本明夫)

#### 【強震動評価】(発表：9編)

防災科学技術研究所 K-net, KiK-net や東京電力柏崎刈羽原子力発電所の公開観測記録を利用した発表が幾つかの研究機関からあり、観測データ共有化の重要性を痛感した。近年、日本では多くの地震を経験し、本セッションでも木造家屋の倒壊の傾向が議論されている。今後はこの成果を踏まえ、2008年岩手・宮城内陸地震の軽微な倒壊率の要因究明がなされてゆくものと思われる。また、地盤のサイト特性評価に対する研究は、今後の耐震設計にフィードバックされるものと感じた。

(文責：日本工営(株) 大角恒雄)

#### 【道路盛土】(発表：11編)

本セッションでは、道路盛土4件、宅地盛土2件、擁壁3件、自然斜面2件の発表があった。その内容は、近年発生した芸予地震、中越地震、能登半島地震の斜面崩壊の被害実態を反映した耐震診断・評価に関するもの(7件)と、宅地造成等規制法の改正に伴うものであった。

特に、人工地盤(土構造物)が大規模地震によって大規模斜面崩壊が発生していることに関心が集まった。大規模地震時、斜面内で何が起きているのか? その正確な実態解明と地盤力学による検証を踏まえた耐震診断法・壊れない盛土づくりの提案を期待されている。

(文責：中日本高速道路(株) 稲垣太浩)

## 7. 地盤防災—豪雨、地すべり・落石、その他

### (1) 斜面安定

#### 【斜面安定(模型実験)】(発表：11編)

降雨による斜面安定問題に関する模型実験が数多く報告された。計測手法・技術に関するもの、斜面崩壊を感知するためのモニタリング、擁壁の安定等の応用問題に関するものなど多岐にわたっていた。1G場だけでなく遠心場においても斜面の降雨実験が行われるようになってきており、今後様々なデータが蓄積され、斜面崩壊予知への利用が期待される。実務問題への適用のためには、研究の目的を明確にし、相似則も十分に考慮しておく必要がある。

(文責：長岡技術科学大学 豊田浩史)

#### 【斜面安定(対策・モニタリング)】(発表：9編)

斜面安定対策に関しては、サクシジョンの作用を利用した遮水層の形成や、樹木根系の崩壊抑制効果、ロックボルトとネットを併用した補強効果について報告があった。古墳にも適用された Capillary Barrier (毛管遮水層) の概念は、古くて新しい技術として興味深いものであった。

モニタリングに関しては、微小電位、降雨強度、斜面変位、サクシジョンを指標とする研究の報告があった。局地的豪雨の頻度が高まる中、これらの研究成果の実用化が強く期待される。

(文責：岡三リビック(株) 小浪岳治)

#### 【斜面安定(危険度評価)】(発表：10編)

本セッションでは、斜面の形状と安定性を検討したものが1編、降雨量や土壌水分に着目して誘因から危険度評価する手法を検討したものが4編、崩壊土量の子測手法を検討したものが1編、地域をメッシュに分割し崩壊確率を求め、さらに損失額からリスクを検討したものが2編、地震動と斜面崩壊、斜面変動を扱ったものが2編であった。「危険度」の意味が幅広いので、「誘因」、「斜面の状態」、「崩落した場合」、「その相互関連」を整理して議論するのを感じた。

(文責：応用地質(株) 安藤 伸)

### (2) 斜面崩壊・地盤すべり、地盤災害他

#### 【斜面崩壊、地盤すべり、他】(発表：9編うち1編欠席) 1002~1010

火山岩類の岩盤崩壊、斜面崩壊問題を課題とする題材が2編、崩壊、すべり等の解析手法に着目したものが3編、崩壊強度の基礎的試験が1編、鉱物学的手法で統計処理を行い地域的傾向性を見出すものが1編、落石対策に係るものが2編と自然災害と防災に関する広範な技術の研究事例紹介があった。なお、崩壊に係る要因分析や点検手法の合理性を追求し、今後の現場技術に活用できることが期待された。また、地震を考慮し、地すべりが係るトンネルとの変形等を3次元的に解析した事例もあり、今後の研究テーマの発展が期待された。

(文責：(株)日本環境衛生センター 八村智明)

#### 【地盤災害(要因分析、他)】(発表：11編)

地盤防災をテーマにした現象把握、メカニズムの解明、シミュレーション、対策工に関する11編の報告がなされた。いずれも身近に起こりうる災害およびその対処方法の事例として興味深い内容であった。特に個別の災害の形態を把握するだけでなく、発生要因等を推測することから同種の災害の予知・予測に資する、リスクマネジメントの視点より取り組まれた研究やマクロな土砂移動現象を解析により可視化する研究等には、今後の研究成果を期待したい。

(文責：砂防エンジニアリング(株) 中濃耕司)

## 8. 地盤環境

### (1) 土壌地下水汚染、調査・試験技術

#### 【調査・試験技術】(発表：10編)

岩盤・堆積層や改良土を対象とする地盤環境の基礎的な特性に関する報告が5編、室内試験と現地調査の新手法の開発や改善に関する報告が5編なされた。基礎